

2013 年日本建築学会大賞

選 考 経 過

日本建築学会大賞は本会の目的に照らし、建築に関する学術・技術・芸術の発展向上に長年の業績を通じて特に著しく貢献された本会個人会員を対象とし、原則として毎年 2 件の業績に贈呈している。またその候補については、一般公募ではなく本会内の特定機関、すなわち 9 支部ならびに 15 の常置調査研究委員会の推薦に限っている。候補の推薦に際しては、大賞候補功績理由書と大賞功績概要を添付していただくこととしている。

今年の候補は、2013 年 1 月 18 日の推薦期限までに、4 支部、9 常置調査研究委員会から 13 候補の推薦があった。

2 月 27 日に大賞選考委員会を開催し、選考方法、表彰業績数などを確認したうえで、各候補ごとに大賞候補功績理由書と大賞功績概要にもとづいて慎重に選考を進めた。

いずれの業績もたいへん優れた業績であるため選考は非常に難航したが、過去の大賞受賞業績の分野等も勘案しながら総合的な見地から協議を重ねた。

その結果、全会一致で、本年は基準の 2 件に対し、特に建築設計業績の見地から高い評価を得た 1 業績ならびに研究業績 2 件の合わせて 3 件を表彰することとし、「エネルギーの釣合いに基づく構造物の耐震設計法の確立と普及に対する功績」により名誉会員 秋山 宏君、「地球環境、こどもの成育環境等における環境デザインの研究、設計、教育、社会活動に対する貢献」により名誉会員 仙田 満君、「様相概念をめぐる空間理論の体系化と創造的な建築・都市設計による建築界への貢献」により正会員 原 広司君の 3 名の方に、2013 年日本建築学会大賞をお贈り申し上げることを決定した。